

前回までの会議における主なご意見

令和7年1月17日
国土交通省 関東地方整備局

1. 多摩川河川整備計画有識者会議における主なご意見

No.	意見の分類	ご意見の概要
1.	河川整備のあり方	【第1回】 - 現在の計画をしっかりと検証し、今後どうあるべきかを考えてほしい。 - 令和元年東日本台風に対し、これまでの整備による効果を示すべき。 - いつ災害が発生するか分からないという局面で、河川整備の速やかな実施は重要である。 - 整備の優先順位を考えて計画を作成する必要がある。 【第3回】 - 今後の気候変動を踏まえ、治水計画を見直す必要がある。 【第4回】 - 洗掘や堤防への負荷に対する対応も記載してほしい。 - 漂流物が堤防に与える影響、特に倒木に対して入れてほしい。 - 科学的なエビデンスを定量的に示してほしい。 - 現段階での治水安全度や流下能力、緊プロを実施した場合にどうなるのか。 - 多摩川の砂利は良質で、昔から骨材として使われてきたということ。堤防に埋めても良いがもったいない。もっと広域で考えて、砂利の有効活用を考えてほしい。
2.	気候変動	【第1回】 - 気候変動による災害の激甚化の対応として、ネック箇所の点検と把握を再度チェックし、整備内容を検討すべき。 - 気候変動の提言内容との整合性を検証すべき。 - 超過洪水に対する安全点検を実施してほしい。

1. 多摩川河川整備計画有識者会議における主なご意見

No.	意見の分類	ご意見の概要
3.	既存ダムの機能強化	【第1回】 - 事前放流による運用であれば可能であり、一番効果がある。 - 河川管理者と利水管理者が相互に協力して、納得するような運用にする必要がある。 【第4回】 - 超過洪水対策について、利水ダムをどう位置づけるのか。
4.	流域治水	【第2回】 - 流域全体で安全性を高めていく流域治水の考え方を明確に書いてほしい。 【第3回】 「河川整備計画」と「流域治水」は非常に整合性が高く、流域の整備計画であっても、沿川自治体としっかりタッグを組んで取り組むべき。 【第4回】 - 砂防・森林・河川の部署を超えた連携が重要と思う。流域全体で水収支を抑えることが今後重要である。 - 流域の水の収支を検討する。その視点を今後の流域治水の中に盛り込む。 - 開発調整池は浸透対策を行っていないので、ダムと同じ設計になっている。もう少し改良を加えて浸透機能を向上させる必要がある。 - 流域治水の内容が寂しい。関連法の中で様々な土地利用に対する対策を出してほしい。流域マネジメントという観点で整備計画を作成してほしい。 - 農地が流域治水で貢献できるように、計画の中で記載してほしい。 - 短期・中期・長期対策があり、複合的にこういう成果をもたらす、という示し方もある。誰が何のために何をしていくのか、整備計画を実現するうえでどういう主体が担当していくか、公表する必要はないかもしれないが、計画を実施する立場としては整理しておくことが重要。

1. 多摩川河川整備計画有識者会議における主なご意見

No.	意見の分類	ご意見の概要
5.	合流部対策	【第1回】 - 樋管操作ゲートが操作できなかった原因と、他の許可工作物管理者にも呼び掛ける等再発防止対策を実施していくことが重要。 - 的確な操作のため、水位計を設置し、樋門の内外水位を把握できるようにすべき。 - 平瀬川合流点では、バックウォーターによる氾濫の問題がある。 - 平瀬川合流点に限らず、警戒避難体制をしっかりと見直ししていくことが必要。 【第3回】 - 河川整備計画を検討するにあたり、内水をどのように考えていくのかが重要である。 - 排水樋管等のゲート操作は超過洪水でも操作できるように改善していくことが必要 【第4回】 - 樋門樋管のゲートについて設計基準がHWLだったが、今は超過洪水に変わっている。点検は行っているのか。 - 支川対策について、平瀬川はきちんとやっているだろうが、似たような場所では点検をきちんと行っているか。
6.	減災対策	【第1回】 - ハード面だけでなく、ソフト面も含めて取り組むべき。 - 都市氾濫の水防は、河川法の治水との両輪で考えてほしい。 - 地域住民あるいは施設の管理者に向けた意識改革、認識というのが非常に大切である。 - 水害に対する意識向上を図るため、市民向けの発信について検討すべき。 【第4回】 - 超過洪水対策について、氾濫した水の排水や排水機場の耐水化などをどうするのか。

1. 多摩川河川整備計画有識者会議における主なご意見

No.	意見の分類	ご意見の概要
7.	令和元年東日本台風（台風第19号）の流量の推定について	【第3回】 - 不定流モデルによる流量推定の手順を示してほしい。 - 粗度係数設定の手順や考え方を整理すること。 - 流量推定に用いた不定流計算モデルの粗度係数等の具体的な根拠を示していくことが重要。
8.	河道計画の考え方	【第1回】 - 的確な堤防や河道の三次元形状の把握をすべき。 【第3回】 - 河床勾配や流下能力のボトルネック箇所等、河道の特性を踏まえた河道計画が重要。
9.	正常流量	【第1回】 正常流量について設定しなければならない。今までやってきたことを出して議論したい。今回入れなくても、ロードマップを示してほしい。
10.	水利用	【第4回】 再生可能エネルギーの観点で整備計画にどう見込むかを考えてほしい。
11.	維持管理	【第4回】 占用構造物について道路・鉄道・農業管理者と今から協議していかなければならない。特に占用構造物に対してどう考えていくか、整備局を含めて議論してほしい。

1. 多摩川河川整備計画有識者会議における主なご意見

No.	意見の分類	ご意見の概要
12.	治水と環境の調和	【第2回】 - 治水の計画と環境の計画がなんとなく分離している。 - 治水工事の際には、環境も良くしていくことも併せて説明されると良い。 - 治水と環境の調和を取り入れることが河川整備計画の見直しの課題である。 - 土砂移動問題が多摩川の治水と環境の大変大きな問題であり、土砂問題をテーマの中心に据える必要がある。 - 多摩川が河川環境問題については先進的であってほしい。 - 大規模出水を経験したことから、治水と環境とはつながりをもって河川整備をすべき。 【第4回】 - 土砂動態の把握と書いてあるが、河道を整備した場合に長期的な定量的な変化について記載してはどうか。 - 環境のベネフィットが定量化できないので、治水事業のベネフィットの差分で評価されている。治水事業は環境の評価ができていない。 - 多摩川では環境事業として予算をかけなくても治水事業の中で対応できるのではないかと思う。 - 今ある多摩川の自然環境をうまく活かして、環境に重視するだけでなく、治水と調和を考えてほしい。 - ネイチャーポジティブは流域全体の話ではあるが、河川整備計画だから、良い（いらない）とはならない。人間が自然を楽しむ、治水と環境の連携について、河川整備計画にこだわらず、スタンスをしっかり出して、基本方針を河川整備計画につなげるよう、今からやっていく。

1. 多摩川河川整備計画有識者会議における主なご意見

No.	意見の分類	ご意見の概要
13.	近年の河川環境	【第2回】 - 河床が平坦になり、瀬と淵が無くなり、水中生態系の状況が悪くなったと感じる。 - 河床の状態や水生昆虫、付着藻類の状態など人の目で見えない箇所についてデータをとっていくことが重要。 - 魚道の改修やメンテナンスにも力を入れてほしい。 【第4回】 - モニタリングで環境の状況を確認し、状況に応じて順応的に対策していくとあるが、それはどうできるのか。評価するためのデータはどのように、何を集めるのか、がポイントとなる。 - 漁場利用に対する配慮を入れてほしい。
14.	多摩川の河川環境の全体像・目標	【第2回】 - 多摩川の全体像を俯瞰した上で、河川環境の何が問題なのか、何を実施すべきなのか。 - 住民の水辺環境の環境価値をどう高めるのか。 - 拠点と拠点のつながり、上下流や堤内地と堤外地のつながりの観点が全く触れられていない。 - 河川環境の目標を改めるのか、目標は変えないが取組を変えるのか。 【第3回】 - ある程度の範囲で、生き物をどう共存させていけるのか。破壊と再生という河川の自然の基本構造について、そのあり方を全体像としてのモノの見方をすることが必要。 - 新たな整備計画を施した場合にどの程度の影響が及ぶのか、それを踏まえて何ができるか、何をすべきかを検討することが重要。

1. 多摩川河川整備計画有識者会議における主なご意見

No.	意見の分類	ご意見の概要
14.	多摩川の河川 環境の全体 像・目標	【第4回】 - 生態系に絶滅の負債を抱えているといわれており、環境が整っていても生き物がそこで生息できない、という状況が生じている。多摩川でもそのような現状があるのではないかと思うので、よく確認してほしい。 - うまく予測できないところや、交渉が必要なものも出てくるだろうが、そういう不確実なところをマネジメントできるように計画に記載する必要がある。 - 具体的にどう進めるのか踏み込むとわからない。 - 生態系ネットワークというからには、河川域と流域の生態系をあらかじめ調べ、どのようなネットワークが必要か考える必要がある。 - 生態系のお話をするとときに、悪いことだけでなく良くなっていることも打ち出していく必要があり、今度の整備計画では重要な点ではないか。 - 河川環境の質をどれくらい認証していくかが重要。河川水辺の国勢調査以外にも環境省や自治体のデータ連携が必要と考える。生態や自然の価値を見出すことで、また違った見方・受け止め方ができるようになる。 - 存在するデータをどう使うのか、今後継続的にデータをどう積み上げるのか、できるのかを記載してほしい。マイナス面があった場合にどう評価するのか。 - 事業による環境へのダメージや自然の循環で良くなっている（シナジー）も評価していく。事業によるダメージの評価は少ない。

1. 多摩川河川整備計画有識者会議における主なご意見

No.	意見の分類	ご意見の概要
15.	順応的な管理	【第2回】 順応的管理による継続的にモニタリングしていくことが大切。
16.	人と自然とのふれあい	【第2回】 - 人と自然のふれあいの場の視点、ランドスケープの視点も重視。 【第4回】 - 人とのふれあい、自然環境を楽しみながら人が使える整備をどのようにしていくのか。 - 河川のレクリエーション・川遊びなど親しめる川にしたい。河川づくりについても、気軽に楽しめる癒しの河川にしてほしい。
17.	水辺の楽校プロジェクトの後継問題	【第2回】 「水辺の楽校」についてはリーダーの後継が不在であり、人をどう育てていくのが課題。 - 水辺環境を考える人を増やす取組をプロモーションしていく必要がある。 【第4回】 - 環境にお金・人をかけていくには、国土交通省だけでは難しく、民間資金を投入するしかない。親水空間や子供の教育等に関して水辺リングなどの延長から投資を呼びかけられないか。 - 民間資金は同意する。自然に対してクレジットのような価値をつけていくというのが民間資金を呼び込むために模索される。民間企業にとっての投資価値を表せるか、生態系サービスとして表せていけるかなどが課題。